

「大人と子どもの防災体験教室」

先進的な防災活動の内容

上京区自主防災会協議会では、平成21年度市民防災会議の取組の一つとして、京都市消防活動総合センターにおいて「大人と子どもの防災体験教室」を開催しました。

この体験教室は、「大人と子どもが一致協力する」をテーマに行いました。

主な体験としては「屋根ジャッキアップ体験」、「放水体験」及び「煙中脱出体験」を実施し、その後「防災」についてワークショップを行いました。

各体験のワークショップでは、「実際に体験してみると、予想と違う」、「冷静な判断ができるようにならなければ」など、様々な感想と意見が出て、改めて体験の大切さを再確認しました。

今後も京都市消防活動総合センターの設備、資器材を活用して、地域では体験できない訓練を行うことにより、上京区民の防災力の向上に役立つよう、継続して実施する予定です。



特記事項

- 今回の「大人と子どもの防災体験教室」では、「大人」にあってはリアル感を持って体験してもらい、困難な様子がありありと見受けられました。
- 近い将来、地域の担い手になるであろう「子ども」たちには、現実に応じた訓練(体験)を通じて、防災に対する考え方や取組を楽しみながら体験している様子が見受けられました。
- 今後は、各学区の防災訓練においてもリアル感のある防災行事を行うとともに、地域コミュニティの活性化のため、「子ども」たちには継続的に参加を呼び掛けて行く予定です。

地域と大学生の連携で「救命の輪」を広げる

先進的な防災活動の内容

大宅学区自主防災会では、平成21年度当初に、学区内の橘大学に学ぶ学生のサークル(TURF＝橘大学救急救命研究会)から、「地域に入って、救急救命措置の普及啓発に取り組みたい。」との相談を受けました。

地域との連携を模索する学生たちの真しな姿勢に共感し、学区で行う各種の行事等において、学生たちとのコラボによる「救急救命措置の指導」を取り入れたところ、

住民の皆さんからは「若い人が参加してくれると地域が元気になる。」などと大好評をいただき、その親切な指導要領が人気を博しています。

地元では、自主防災会と若い学生たちの連携で、「救命の輪」が大きく広がるとともに、彼らがもたらした新鮮な息吹が、地域防災活動の更なる活性化に結び付くものと大きな期待を寄せています。



子どもや学生と
共に行う取組

特記事項

- 大宅学区は、市街地と山林、商業と農業、新住民と古くからの住民、高速道路と旧道・農道など、様々な要素が混在する広範囲で多彩な地域です。自主防災会では、「防災」で地域をつなげようと様々な取組を行っています。
- 橘大学[TURF]の活動は、京都市の「学まちコラボ」事業として認定されたもので、サークル所属の同大学生は全員「救命処置」指導の資格を取得しています。

世代を越えて地域を守れ

先進的な防災活動の内容

吉祥院学区自主防災会では、吉祥院小学校において総合防災訓練を実施しましたが、平成20年度は、ボーイスカウトにも参加を勧奨したところ、気持ちよく承諾してくれ、学区民共々真剣に訓練に取り組んでくれました。更にボーイスカウトの若い息吹もあって、訓練参加者の多くが、各訓練種目に積極的に取り組み、活力ある防災訓練

となりました。

また、煙体験コーナーでは、共同購入した住宅用火災警報器を作動させ、火災初期の状態を演出することにより、火災の恐ろしさを参加者の視覚と聴覚に訴えました。参加者は、共同購入した機器の警報音を確認し、火災時の煙の恐ろしさを再確認しました。



特記事項

- 参加したボーイスカウトが、今回の訓練で得た知識や体験を今後の活動に生かし、更なる防災意識の高揚を図ってもらいたいと思います。

地域で育てる次世代の防災リーダー

先進的な防災活動の内容

太秦学区自主防災会では、学区内の小学校3年生から5年生を対象にして、毎月第1土曜日に防災に関する様々な体験や勉強を行う「太秦こども防災土曜塾」を開催しています。

これは、幼少期から防災活動に携わることにより、地域における次世代の防災リーダーを自らの手で育てようと、自主防災会のメンバーが中心となって平成17年度に立ち上げ、その後継続して実施しているものです。

取組内容は、消火器及び防災器材の使用方法や応急手当の方法の体験、学区内のオリジナル防災マップやオリジナルの防火バケツ作り、小学校の家庭科室での炊き出し訓練、市民防災センターでの研修等、多岐にわたります。

また、学区の総合防災訓練では、毎年大人たちの前で消火器訓練等の日ごろの訓練の成果を披露して大きな喝さいを浴びています。



子どもや学生と
共に行う取組

特記事項

- 毎年約20人強の応募があります。
- 必要な資器材等は自主防災会で用意しています。
- 主な活動拠点は小学校の敷地内で、小学校の協力の元に開催しています。
- 保護者が参加されることもあります。
- 体験を重視しており、必ず参加者全員が何らかの経験ができるよう心掛けています。

「少年消防クラブ・竹田班」出動

先進的な防災活動の内容

竹田学区自主防災会は、平成21年度に結成10周年を迎えました。

今年の総合防災訓練(竹田防災フェスタ)の特色は少年消防クラブ・竹田班員の訓練への積極参加です。訓練参加者の高齢化に伴い、引込み思案になりがちな参加者に代わり、クラブ員が率先垂範、訓練指導者の説明に耳を傾け、実技を積極的に実施してくれました。

起震車体験訓練、住宅用火災警報器の

展示説明訓練の後、9人のクラブ員が全員参加したバケツリレーでは、大人に混ざって、大きな声を掛け合いながら見事に消火に成功し、参加者から拍手喝さいを浴びて照れていました。

最後の訓練、AEDを使った心肺蘇生訓練では、指導者の指示に従い短時間での蘇生に、現役の救急隊員も「将来の救急救命士」と太鼓判を押しました。



特記事項

- 子どもたちが訓練に積極的に参加することで、大人たちも釣られるように参加してくれるようになりました。

飽きっぽく、遊び感覚で参加していた子どもたちも、訓練終盤では、大人顔負けの実技を行っていました。来年からも彼らの参加に期待したいものです。

総合防災訓練における新しい取組

先進的な防災活動の内容

小栗栖宮山学区自主防災会では、毎年、総合防災訓練を実施していますが、参加者が年々減少しているのが悩みの種です。

このような現状を打破し、参加者数を増やすために、小栗栖宮山学区自主防災会の役員会において、平成21年度総合防災訓練への小栗栖中学校吹奏学部の参加を提案しました。当日は、吹奏楽部による演奏会を実施するとともに、小栗栖宮山学区社会福祉協議会と協力して、訓練の終了後に、「もちつき大会」を併せて実施することになりました。

当日は、晴天に恵まれて、防災訓練の開会式の直後に行われた小栗栖中学校吹奏学部の演奏により、会場が和らぎました。

また、訓練終盤の、炊出訓練で作られた「豚汁」と、もちつき大会できねでついた「温かいつき立てのもち」を振る舞い、訓練で冷えた身体も暖まり、参加者からも笑顔がこぼれました。今回の参加者数は、前回よりも大幅に増えました。

これは、防災訓練と一味違った吹奏学部の演奏や、もちつき大会を併せて実施したことによるもので、このアイデアは、大成功でした。



特記事項

- 今回、自主防災会では、訓練参加者を増やすためにあらゆる方法を検討しました。
- 学区内の幼稚園児及び保育園児によるマーチングバンド、鼓笛隊等の参加や、小学校児童による催物、他の地域の各種団体との連携や協力による催物等、自主防災会役員の知恵を絞り、今回、中学校吹奏楽部との連携が実現できました。